

持続可能な開発目標に向けて

環びわ湖大学・地域コンソーシアム 第三ステージ宣言

滋賀県における大学と県・地域との連携組織である「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」は、その前身「環びわ湖大学連携推進会議」の期間を含めて 17 年が経過した。2003（平成 15）年に大学連携や大学の『知』を生かしながら、産業界等との連携を発展させ、地域に新たな活力を生み出す社会的な貢献を行うことを目指し、キックオフ宣言を行った。

さらに、2010（平成 22）年の一般社団法人化に際して、滋賀県に立地する大学と自治体が、産業界等、非営利組織、住民などと広範な連携をさらに進め活動するとして第二ステージ宣言がなされた。

第二ステージ宣言から 10 年、気候変動のリスクが高まり、紛争による難民は後を絶たず、世界経済の先行きは不透明になっている。国内では人口減少の中で東京一極集中が止まらない。このような中、2015（平成 27）年に「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が国連で採択され、「貧困をなくす」ことをはじめ「質の高い教育をみんなに」、「気候変動に具体的な対策を」など 17 の持続可能な開発目標（SDGs）が定められ、世界の一人ひとりの輝く未来のために共通の指針となっている。

滋賀県はいち早く SDGs に取り組む宣言をし、県内大学も SDGs への取り組みを始めている。SDGs を達成するためには、一人ひとりが主体的に学び続け、イノベーションを巻き起こす姿勢が重要である。また、それを促す環境を醸成する必要がある。それゆえ、現代社会の中で大学が果たす役割は大きく、とりわけ大学と地域、産業界等との連携が重要となってくる。地域における連携こそが持続可能な地域を支える「知の共通基盤」である。

環びわ湖大学・地域コンソーシアムは、さらに輪を広げ、滋賀県内の様々な自治体・産業団体とともに、地域の課題に立ち向かうことのできる「知の共通基盤」を強化するプラットフォームを目指す。インクルーシブで柔軟なパートナーシップに基づく第三ステージへと踏み出すことをここに宣言する。

2020（令和 2）年 3 月 18 日

滋賀大学 学長	位田 隆一	滋賀県副知事	西嶋 栄治
滋賀医科大学 学長	塩田 浩平	大津市長	佐藤 健司
滋賀県立大学 学長	廣川 能嗣	彦根市長	大久保 貴
龍谷大学 学長	入澤 崇	長浜市長	藤井 勇治
立命館大学 学長	仲谷 善雄	草津市長	橋川 涉
成安造形大学 学長	岡田 修二	甲賀市長	岩永 裕貴
聖泉大学 学長	小山 敦代	東近江市長	小椋 正清
長浜バイオ大学 学長	蔡 晃植	滋賀経済同友会 代表幹事	高橋 祥二郎
びわこ成蹊スポーツ大学 学長	入口 豊		
びわこ学院大学 学長	賀川 昌明		
滋賀文教短期大学 学長	松本 博文		
滋賀短期大学 学長	秋山 元秀		
放送大学滋賀学習センター 所長	吉川 栄治		